

令和6年度 道徳アンケート結果と考察

【低学年】

・重点を置いていた「親切・思いやり」の価値項目で、6月から12月にかけて肯定的な回答が増えた。(とてもそう思うの割合 6月：71%→12月：79%)

どの学級でも、研究授業の実施および日々の道徳授業の工夫によって、道徳的価値への理解が深まったと考えられる。

・全体的に、否定的な回答が少ない。道徳の授業への充実感が高いことが分かる。

・道徳の時間に、考えを発表したり、友達の考えを聞いて話し合ったりする活動に進んで参加する児童が増加している。(とてもそう思うの割合 6月：53%→12月：67%)

担任が児童の考えを認め、多様な意見が出やすい雰囲気を作ってきた成果だといえる。

【中学年】

・重点を置いていた「個性の伸長」の価値項目で、6月から12月にかけて肯定的な回答が増えなかった。(とてもそう思うの割合 6月：61%→12月：60%)

中学年では、友達の良いところを見つけることに対して積極的な一方で、自分の良いところを見つけることには消極的な傾向があるように思われる。自分の良さを感じられるよう、日頃から担任の声かけや認め合う場の設定が必要だろう。

・その他全体的に6月から12月にかけて、肯定的な回答が横ばいか減っている。特に、「道徳の授業は好きですか」に対する肯定的な回答が減っている。担任が児童の意見の良さを認めたり、積極的に友達と交流する機会を設けたり、道徳に対しての肯定的な印象をもたせることが必要であろう。

【高学年】

・重点を置いていた「伝統文化」の価値項目で、6月から12月にかけて肯定的な回答が増えた。(とてもそう思うの割合 6月：53%→12月：62%)

・その他全体的に6月から12月にかけて、肯定的な回答が横ばいである。ただし、「対話や議論における主体性」への回答は増えている。話し合う機会を意図的に増やしたことがよい影響を与えたと思われる。一方で、道徳が好きな児童の割合は僅かではあるが減っている。中学年同様、道徳への肯定的な印象をもたせたい。

【全学年】

・全ての質問で、肯定的な回答が増えている。

・6月から12月にかけて大幅な増加はどの項目でもなかったものの、通年で道徳の授業が好きな児童は多い。(全ての項目で肯定的な回答率が80%以上)

特に、「多面的・多角的に考える力」、「親切・思いやり」、「伝統・文化の尊重」、「個性の伸長」で肯定的な回答率が90%を超えた。交流や発表する機会の確保、認め合う雰囲気の醸成がどの学級でもできている結果だと考えられる。

・しかしながら一定数否定的な回答、交流や発表に消極的な児童も見受けられるため、担任が授業コーディネートを工夫していく必要がある。